

千葉大学医学部附属病院 脳神経内科にてギラン・バレー症候群と診断され、臨床研究に参加された患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年3月9日

脳神経内科

脳神経内科では、「ヒト血清中のギラン・バレー症候群発症の要因となるカンピロバクター細胞壁糖鎖認識抗体の解析」の研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2009年より実施されている「神経・筋疾患の患者試料を用いた包括的プロテオーム解析」の臨床研究に参加され、将来の研究への試料・情報の利用及び提供に同意された方

1. 研究課題名

「ヒト血清中のギラン・バレー症候群の発症要因となるカンピロバクター細胞壁糖鎖認識抗体の解析」

2. 研究期間

2026年承認日～2028年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

カンピロバクターは食中毒の起因菌であり、本菌感染の続発症として自己免疫疾患であるギラン・バレー症候群を発症することがあります。これは特定のカンピロバクターがヒトの神経細胞上に存在する糖鎖と同じ糖鎖構造を持つことが原因です。しかし、通常はカンピロバクターに感染しても、ほとんどの人はギラン・バレー症候群を発症しません。そこで本研究の目的はギラン・バレー症候群の発症理由を明らかにしようとするものです。多くの方のご協力をいただき、脳神経内科を受診された時に、ギラン・バレー症候

群を発症していた方とギラン・バレー症候群を発症していない方の間で、血液中の抗体の種類や量に違いがあるのかを明らかにします。そして、この結果からどのような仕組みでギラン・バレー症候群が発症するのかということを解明することが期待できます。本研究の結果は、ギラン・バレー症候群の発症を予防したり、最適な治療法を選んだり、新しい治療法を開発したりといったことに発展していくことが期待されます。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・試料：「神経・筋疾患の患者試料を用いた包括的プロテオーム解析」の臨床研究で採取された血液検体で、将来的な関連研究における二次利用について同意されて保存されている血液検体
- ・情報：診療録に記載されている年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴、併用薬、血圧、基礎疾患、感染症、診断病名

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：病原細菌制御学 准教授 清水 健

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院検査部において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません

ん。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

脳神経内科 准教授 森 雅裕

043（222）7171 （代表）